



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



三十三年ぶりに徳之島で開催

毎年恒例の鹿児島教区司祭大会

離島が多く普段はなかなか全員揃っては交流することのできない鹿児島教区で働く教区司祭、修道会司祭が一堂に会し、共に研修し祈り合う教区司祭大会が、今年も一月二十六日(月)から二十九日(木)までの四日間、徳之島で開催され、研修ではホアン・マシア神父(イエズス会)から「家庭と宣教」について熱心に学習した。

一九七七年に始められ、毎年恒例となっている「鹿児島教区司祭大会」。この教区で働く司祭の研修会が今年も三十三年ぶりに徳之島で開催された。

徳之島での開催については司祭たちから「ぜひ、徳之島で」という要望があったからで、担当の奄美地区の司祭たちが計画してくれたもの。司祭団の中には徳之島を初めて訪れる司祭、

久しぶりに訪れる司祭、三十三年前のことを思い出す司祭など様々だったが、こんな司祭たち以上に島での司祭大会を喜んでくれたのが、地元徳之島の信者たちであった。島の信者たちは徳之島にある十カ所の教会を担当し司牧してくれたレデンプトル会の司祭たちとの再会が特に嬉しかったようで、互いに年老いた姿をいたわりながら、かつての思い出話に花を咲かせた。

そんな思い出深い徳之島での司祭大会。今年はいエズス会のホアン・マシア神父を講師に招き、「家庭と宣教」をテーマに研修がなされた。

「家庭と宣教」は今年の秋に開かれるシノドス(世界代表司教会議)で取り上げられるテーマ。これは、昨年開かれた臨時のシノドスにおい



「家庭と宣教」テーマに徳之島で司祭大会

て最終報告として出された「家族の召命と使命」に沿っているもので、講師はこの課題を教皇フランシスコが著した使徒的勧告「福音の喜び」に重ねながら講話した。

講師のマシア神父は結婚問題、家庭問題などで苦しむ人たちに着目し、「大切なのはこれらの問題で苦しむ人たちを疎外するのではなく、同じ神の民として、同じ神の憐れみの対象として、福音・みことばを土台として一つになること。教会が福音の喜びをもって家族を支え、家族が福音の喜

びをもって社会の福音化に貢献できるように、お互いが神の憐れみを受けている者として、憐れみ、寄り添うことが必要だ」と熱心に話した。

沢山の働きありがとう!

ヨハン・レヒナ神父が帰国

谷山教会協力司祭ヨハン・レヒナ神父(八十歳)が日本での働きを終え、二月下旬、故国ドイツへと帰国した。

一九三四年にドイツはバイエルン州バイセンベルクに生まれたレヒナ神父は、

十九歳でレデンプトル会に入会。そして一九六〇年に司祭に叙階され、その後、イタリアで神学を学んだ後、一九六三年十一月にヨルダン・ハンマ神父と共に来日、以来実に五十二年の間、徳之島や大口、川内



など教区各地で宣教司牧に全力で働いてくれた。帰国後はガルス修道院で生活する。木彫りが趣味だった神父が手がけた祭壇や聖櫃などは教区の各地の教会に残され、神父の祈りと共に働き続けてくれることになった。そのレヒナ神父の送別会は二月十五日(日)谷山教会で開かれ、多くの信者たちが別れを惜しんだ。

貴島丈弥神学生助祭に
3月28日にフィリピンで叙階式
三月末、貴島丈弥神学生(三十八歳)が助祭の聖位



にあげられる。聖心教会出身。奄美市名瀬出身の貴島神学生は、大島高校卒業後、社会での実践を積み、二〇〇六年四月にサン・スルピス大神学院に入学した。二〇〇九年三月に朗読奉仕者に選任され、その年の四月

に青少年プログラムを学ぶためにフィリピンへ留学し、現在に至っている。フィリピンでの留学もすでに六年あまり。ようやくたどり着いた助祭叙階である。叙階式には小川靖忠神父を団長とする巡礼団が組織され、フィリピンへ足を運ぶことになっている。貴島神学生の助祭叙階式は三月二十八日(土)、フィリピンはマニラのサンカルロス神学院聖堂で行われる。

修道会人事

一月五日(日)、東京準管区と鹿児島準管区が合併し、日本準管区として再スタートを切ったレデンプトル会(日本準管区長・瀬戸高志神父)は、一月四日、以下のように人事異動を発表した。

異動はいずれも復活祭後を予定。

▼盛克志神父(鹿児島修道院)は、初台教会主任司祭

▼頭島光神父(長崎修道院)院長・愛宕教会助任司祭)は、谷山教会主任司祭

▼福崎英雄神父(谷山教会主任司祭)は、和泊教会協力司祭。尚、同神父は一年間のサバティカル(研修)

▼大松正弘神父(母間、和泊教会主任司祭)は、川内教会主任司祭

▼テヨドル・メニツヒ神父(川内教会主任司祭)は、母間、和泊教会主任司祭

▼石田望神父(出水教会主任司祭)は、諏訪教会主任司祭

▼萩原義幸神父(東京修道院)は、出水教会主任司祭(一九八一年九月十四日生まれ、三十四歳)

▼

▼

▼

▼

▼

▼

▼

▼

種パン

キリスト者なら、「善いサマリア人」(ルカ福音書十章25-37)でありたい、と思います。もちろん、キリスト者でなくても、善意の人はたくさんいます。

寄り添って生きること

善きサマリア人でありたい私たち

いま助けを必要としている人が目の前にいるのに、いろいろな言い訳をして、通り過ぎてしまします。なぜなのでしょう。

「その人を見て憐れに思った」サマリア人は当時、差別と偏見を受け、傷みを抱えて生きていました。

傷ついたり心があればこそ、「助けを必要とする人」の傍らに寄り添うことができたのです。

私たちが隣人とかかわりの中で、分かち合えない思いを心の疵として抱えて生きています。その瘡蓋が無

「傷ついたり私自身」と和解していないからです。

傷ついている「私」を救うことです。自分を責めるのではなく、祈り合うことです。

それができれば、弱く、脆く、傷つきやすい私たちがだからこそ、互いに支え合うことができます。

何度も「助けを必要とする人」の前を過ぎてしまった傷みを持つ牧者だけに、傷ついたり「寄り添い」生きてゆきたいと願うのです。

(玉里教会主任司祭 小隈憲士)

班制度の活性化のための課題

紫原教会 山下和美

昨年(二〇一四年)の教区評議会は、班制度の見直しテーマとされた。そこで検討された内容については、教区報を通じて既に報告がなされている。これを受けて各小教区において様々な取り組みがなされている。紫原教会においても、昨年からは毎月行われている司牧評議会・班会において、議題の一つとして取り上げられている。私は、昨年の教区評議会が班制度をテーマとしたことは、第二バチカン公会議後五十年という節目において、画期的なことであり良かったと思うと同時に、今後の実践が鹿児島教区の将来を大きく左右する重大なものと感じている。そこで班制度を刷新するための課題をいくつか指摘してみたい。

班制度の現状と具体的な問題点については、各小教区から出されているので、教区共通の課題と小教区独自の課題を見つめることが可能である。ここでは根本的な課題を指摘してみたい。私たちが問題とすべきことは、班集会が出来ない、人が集まらない、家庭集会が開かれていないといった班制度の手段だけのことではない。なぜこうなっているのかという原因にさかのぼることが必要だろう。

存在理由が問われてくるのではない。小教区は何のためにあるのか、小教区の目的は何か、この点を絶えず確認しながら班制度を維持することが大切だと思う。人それぞれに、班や教会のイメージや理想像が異なる。教区評議会の報告を読んでいても、そのことを感じた。教会がキリスト者の共同体である以上、その目的は福音宣教であり、宣教共同体としての使命を果たすことが第一義だと思ふ。教会の班制度は、町内会や生活協同組合組織の班組織とは、根本的に違う。その共通理解がなければ、共通実践も難しいだろう。福音宣教のとりえ方についても、信者の増加、教義の影響力の拡大、社会において福音を必要とする人々との連帯など、どこに重点を置くかが問題となる。班制度においては、班員の交わりを強めることと、地域の人々との交流を図り福音化に努めることは最小限必要である。

第二は、班組織の主体は信徒であり、信徒の役割についての理解が必要であるということだ。班組織は、地域における信徒から構成される組織であり、そこにおける活動は信徒の使徒職である。洗礼によってキリスト者として召し込まれた信徒は、使徒職へ召し込まれたこととなる。「この世の中に住み、世俗の仕事に携わるのが信徒に固有の身分であるから、キリスト教精

神にもえて、パン種としてこの世において使徒職を果たすように神から召されている。」(信徒使徒職教令2項)班組織における使徒職として、私たちは「福音化と人々の聖化に尽くし」「福音の精神を世間に浸透させ」なければならぬ。主任司祭の要請に基づいて班会議を開いたり、家庭集会を行うわけではない。キリストから与えられた信徒固有の使命として、班の活動を行うのである。これまでの主任司祭依存傾向からの脱却が求められる。もちろん主任司祭の指導を受けたり、協力を得ることは言うまでもない。

最後に、班制度の理解に第二バチカン公会議を学ぶことが不可欠であるということである。特に現代教会のあり方を示した「教会憲章」、教会が社会とかわるることについての原理を示した「現代世界憲章」、信

徒の役割を示した「信徒使徒職教令」、これらの公文書を信徒は学ぶ必要がある。昨年(二〇一四年)二月、日本のカトリック司教団は「第二バチカン公会議の学びのすすめ」という文書を出している。そこにおいて「信仰年」が終わった後においても、第二バチカン公会議、特に「教会憲章」「現代世界憲章」を学ぶことの重要性を指摘している。私は、班制度を考える上で重要な文書である「信徒使徒職教令」も付け加えたい。というのも、班組織は「地域に密着した信徒使徒職団体」だから。

今日教会が悩み苦しんでいる問題は、他にもある。種々の事情・理由によって主日のミサに参加できない兄弟姉妹がいること、高齢者や教会と距離を置いている仲間たちがどういう状況に置かれているかが十分把握されていないこと、教会の維持費が集まらずに会計が逼迫していること、地域において教会の存在感がないことなどである。これら

鈴木神父のやさしいみ言葉

サタン、引き下がれ…②

今回は「サタン、引き下がれ。」という言葉をもとに、イ福音書に沿って考えてみましょう(十六・23)。マタイでもこの箇所は原文で「私の後ろに引き下がれ、サタンよ。」となっていていますが、マルコとは異なり「サタンよ」の後はピリオドで区切られています。こうなると「引き下がれ」という命令を表す動詞の後に

付けられたカンマに「もしそうであればくだ」とか、「もしそうでなければくだ」という意味が込められます。つまり、ペトロがイエス様の言葉通りに「引き下がるか否か」が「サタン」と呼ばれる条件となるのです。また、マルコではこの文の直前にイエス様が「叱って言われた」とあります(八・33)、マタイでは

「言った」という言葉しかありません(十六・23)。ここにも注意が必要となります。

マタイでもこの直前でイエス様は弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと思ふのか」と問われます(十六・15)。その問いにペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えます(十六・16)。マタイでもペトロは的確な答えをしながらも、いざイエス様がメシアとして歩む道を語られるとそれを受け入れられませんでした(十六・

22)。イエス様は一緒にいてもご自分のことを未だに理解できないペトロのことをどう思ったのでしょうか。マタイはそのことについて何も書いていませんが、マルコとは異なりペトロを責める言葉がないことから、おそらくイエス様は憐れみと慈しみの眼差しをペトロに向けて、諭すように「私の後ろに引き下がれ、サタンよ」という言葉が先立っていること、このことが如何に難しいかをイエス様は十分にご存知なのです。



+KABAYAN SEKSYON+
Panalangin: Nakaugat sa Buhay na Pananampalataya

Ang pagtawag natin sa Diyos na "Ama Namin" ay paraan ng pagpapahayag ng pananampalataya; taglay dito ang ugnayan natin sa Diyos at sa ating kapwa. Itinuro ni Hesus ang panalangin ito sa iba't ibang mga pagkakataon. Naitala sa Bagong Tipan ang dalawang bersiyon-isa mula kay Mateo (6:9-13) at isa mula kay Lucas (11:2-4).
 Dahil si Hesus na Panginoon ang nagturo ng panalangin ito sa kanyang mga alagad, tinatawag ito ngayon na "Panalangin sa Panginoon." Tinukoy ito ni Tertullian na "buod ng buong Ebanghelyo", at tinawag ito ni Santo Tomas de Aquino na "pinaka-perpekto sa lahat ng mga panalangin."
 Sa unang kalahati ng Panalangin, isinasaad dito ang ating pananampalataya sa pagpupuri natin sa Diyos, nagsusumamo na "mapasaamin ang kaharian mo, sundin ang loob mo." Ang ikalawang kalahati ay pagsusumamong puno ng pananampalataya: "Bigyan mo kami ngayon..."
 Maari rin nating ihambing ang dalawang bahagi ng Panalangin sa dalawang batayang utos ng Diyos na mahal in ang Diyos at ang kapwa. Dahil sa ating pananampalataya kailangang isuko natin ang sarili sa Diyos na isang mapagmahal na Ama at kailangan ding patunayan ang ating pananampalataya lamang natin mahihingi sa Diyos: "Patawarin mo an gaming mga kasalanan gaya ng pagpapatawad naming sa mga nagkakasala sa amin." Itinuro sa atin ng Panginoon Hesus na sa pagpanalangin natin sa Diyos ay kailangan ang tiyaga at tiwala.

Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr.Dino Orolfo)

レターレ、ショートブレッドなど 手作りのお菓子をご自宅に 聖血礼拝修道会聖ヨゼフ修道院

しばらくの間お休みさせて頂いておりましたお菓子の通販を再開いたしました。ご注文頂きましたら、手作りのお菓子(レターレ一個百八十円、ショートブレッド小袋二枚入り六十円など)をご自宅までお届けします。各種詰め合わせも可能です。ご要望があられましたら、ご連絡ください。お値段表をお送りいたします。尚、送料は別途頂きますのでご了承ください。 千八九九一六四〇一 霧島市溝辺町有川一〇七 聖血礼拝修道会・聖ヨゼフ修道院 TEL〇九九五(五八)二三一六 FAX〇九九五(五八)三二一八



歩みはいつも神のみ摂理のままに

ステイブ神父の銀祝を祝う

枕崎教会

ある日、司教様から電話を頂いた。「今、一人の神父さんのことを伝えたい。この神父さんは沖繩で枕崎のように小さな教会を瞬く間に百人



感謝のミサをささげるステイブ神父

くらい大きな教会にした人です。枕崎に行っても「いましようか」早速、部屋の塗り替え、絨毯の張替え、ベッドや布団の調達など終えた頃、新しい司祭ステイブ・バラスバスターミティボ神父(六十五歳)さんを迎えた。フィリピン宣教会の神父さんは色浅黒く、信仰の塊みたいな人。でも笑顔と笑い顔が絶えない方でもある。

「今年の司祭大会の後、丸野、寝占の両神父をお招きし「枕崎を元気にする会」が開かれた。その際に出された鯉のビン

タ料理に氣勢をあげられるほど魚好きの神父様でもある。今年が献堂六十年にもあたり「何かありそうだな」と感じていたところ、ステイブ神父が「私は一九九〇年の一月二十七日の叙階。今年が二十五周年」と言われ、「これだったか」とみんな納得した次第。差し迫ってからの発表で、計画もなかなか思いに任せず、その範囲でできる準備を進めた。神父といえば自分で案内状を作成し、あちこちに配っていた。銀祝の感謝のミサのための資料も簡単なもの。当日の聖歌もその朝によく決まる

という始末だった。感謝ミサの参列者は沖繩、東京、川内、ザビエル、加世田からで、聖堂はいっぱいになった。ミサの中でステイブ神父は自分の生い立ちから今までの歩みを次のように話した。「私は貧しい家に生まれ、父にも先立たれ親戚の世話になって成長した。子ども頃から聖職者への憧れを持ち、二十歳から三十三歳まで聖体礼拝会の修道士になった。でも司祭職への望みを捨てきれず四十歳になつてフィリピン宣教会の司祭になり、日本へ派遣された。私は神のみ摂理のままに生きてきた。皆さんも同じように神のみ摂理を大切にして欲しい」

ミサ後は幼稚園跡の広間で祝賀会があり、自己紹介や歌、寸劇などが披露され、ステイブ神父も自慢のピアノを披露してくれた。そして恵みのうちに枕崎教会の発展を祈りながら家路に着いた。(枕崎教会レポーター 迫田久光)

大口教会で堅信式

二月八日(日)大口教会(アッシュヤー神父)では堅信式があり、中学生十一人と大人二人の計十三人が受堅し、大人の信者としてのスタートを切った。

堅信式のミサで説教した郡山司教は「洗礼によって神さまをお父さんと呼べるようになった私たちは幸せ。今日の堅信の秘跡によってお父さんのために生きる決意を表明しよう」とメッセージを送った。ミサ後は信徒会館に会場を移し郡山司教も一緒に堅信を祝う祝賀会が開かれた。

いらっしやい！ ピアンネ神学生ご家族

教区の神学生で一番体格がいいのは、言わずと知れたイ・ピョン・ドク神学生。ピアンネさんの呼び名で親しまれている。現在、仁川カトリック神学院で学び、今年の春から大学院へ進む。お相撲さんのように巨体の彼、性格は穏やかでおっとりしている。鹿兒島で働ける司祭になるためにと現在ダイエット中で、この冬休みの鹿兒島滞在期間中に九キロの減量に成功と自慢する。もちろんとても痩せたようには見えない。ある日の軽い食事会でもコンビニで購入してきた恵方巻を「これは美味しいです」と三本ペロリ。その屈



託無い笑顔が人気の秘密かもしれない。そんな彼のお母上・ルチアさんとお姉さん・スザンナさんが一月下旬、韓国から鹿兒島を訪ねしピアンネさんと一緒に指宿や霧島などを観光した。ふくよかで笑顔の可愛いお母さんはピアンネさんそっくり。ピアンネ一家の温かさを感じさせてくれた。

司教執務室便り

神の呼びかけに答える



「司祭を志す者は一歩前に出なさい。」

確かそんな呼びかけだったと思う。神学科に上がった六月だったか、剃髪式を受けるときの呼び出しへの答えは「アドゥスム！」。少年サムエルが神殿で神さまに呼ばれた時の返事の言葉で「ここにいます」(サムエル上三・4)というラテン語。同級生五人が一列に並び、一人ずつ「アドゥスム！」の返事と共に一歩前に踏み出し、司教様から前髪を少し切ってもらってスータンを受ける。あの時の感動は今も忘れない。簡単に頷くのは哲学生らしくないと、いつもハスに

構え、理屈をこね回していた哲学課程の二年間。そして意気込んで臨んだ神学科の最初の授業。「これが学問?!」あまりの手ごたえのなさに絶句したものだ。そして、これまでとは百八十度違う雰囲気での神学のクラスが始まることになった。

こうして迎えた二か月後の剃髪式。凛と響いた「一歩前に出なさい」という抗いがたい促しのことば。「アドゥスム！」の応答。「分かりました。もう何も言いません。」神様に兜を脱いで無抵抗を誓ったときだった。「ボクの人生はこれで決

まった。」確信のような思いが全身に満ちた。五人のうち二人は別の道を行くことになったが、大荒れに荒れた哲学時代と違って穏やかな毎日だったように思う。

会と催し (3月)	
1日(日)	四旬節第二主日
4日(水)	聖マリア学園理事會・教区本部・10時
8日(日)	四旬節第三主日
10日(火)	青少年(中学生) 黙想會・教区本部・13時
15日(日)	大隅学園理事會
17日(火)	四旬節第四主日
17日(火)	畑中辰雄神父命日(一九七四年)
17日(火)	日本の信徒発見の聖母
17日(火)	田原章神父叙階記念(一九五三年)
18日(水)	教区巡礼委員會・教区本部・19時
18日(水)	アドリミナ・28日まで
19日(木)	岡俊郎神父叙階記念(一九六六年)
19日(木)	聖ヨセフ
19日(木)	大野和夫神父、牧山田一神父、岡俊郎神父、ムイベルガ神父、栃尾泰英神父、タム神父霊名
20日(金)	ゼローム神父命日(二〇〇三年)
20日(金)	成相明人神父(一九六七年)、丸野六雄神父叙階記念(一九七七年)
20日(金)	郡山健次郎司教叙階記念(一九七二年)
20日(金)	永山幸弘神父(一九六八年)、寝占敦之神父叙階記念(一九八三年)
21日(土)	美島春雄神父(一九六七年)、小隈憲士神父(一九八八年)、大松正弘神父(一九八七年)、末吉卓也神父(二〇〇三年)、石田望神父(二〇〇三年) 叙階記念
22日(日)	四旬節第五主日
22日(日)	オリブの會・教区本部・14時
24日(火)	山口好信神父叙階記念(一九九一年)
25日(水)	神のお告げ
25日(水)	泉浩二神父叙階記念(一九九三年)
27日(金)	コンタリーニ神父命日(一九九八年)
27日(金)	島田喜藏神父命日(一九四八年)
28日(土)	貴島丈弥神学生助祭叙階式・サンカルロス神学院(マニラ)・9時
28日(土)	宣教学校・ザビエル教会・13時30分
28日(土)	田邊徹神父叙階記念(一九五一年)
28日(土)	明松尊吉神父命日(一九九二年)
29日(日)	受難の主日(枝の主日)
29日(日)	MEブリッジ・教区本部・13時30分
31日(火)	河野純徳神父命日(一九八九年)

祈りの意向

【フベナ】「四旬節」に入り、司教、司祭、修道者、信徒の回心ために(1日~9日)

【祈祷の使徒會】 世界共通・科学者 宣 教・女性の貢献 日本の教会・宣教の刷新

ザビエル様の情熱残るゴアへ

十年ごとのご遺体公開に合わせて

ザビエル教会主催でインド巡礼(1)

巡礼記

十年に一度公開される聖フランシスコ・ザビエルの遺体。昨年の十一月下旬から今年一月初旬の四十四日間がその公開期間に当たった。郡山司教の呼びかけで、聖ザビエルと面会するツアーを計画したザビエル教会は郡山司教、アン神父を代表に十九人の巡礼団を組織、十二月五日から六日間、ザビエルの息吹を味わう旅に出かけた。

ザビエル教会

稲村直大

皆さま、ナマステ(こんにちは)。

昨年十二月五日(金)の第一波の寒気が襲って来ている寒中、郡山司教様、アン神父様、添乗員含め十九人は福岡国際空港から熱い思いを胸にインドへ向け旅立ちました。香港経由でインドまでは十時間の長旅でした。ムンバイに着いたのは夜中の十一時五十分、にもかかわらず気温は二十度以上。インドでは日中は平均気温三十三度にもなることでした。

翌日六日(土)は聖フランシスコ・ザビエルの眠るゴアへ向け(空路一時間十分)移動し、ドンボスコ教会でミサをささげました。



巡礼団一行(ドン・ボスコ教会で)

その後ゴア市内観光をした後再び、オールド・ゴアに戻り、カテドラル内のBlessed Sacrament聖堂にてミサでした。ミサではインドのシスターや家族も聖体拝領の列に並ばれましたが、家族の方へはシスターが祝福だけに留められました。どうやらヒンズー教徒だったようで、それでも「カトリックは他の宗教でも引き付ける魅力があるんだ」と感じ入った次第です。ミサ後に主任司祭より案内され通さ



丸野神父の司式でミサをささげる

教会でミサの後、ゴア料理のレストランで昼食、市内観光し夕方、空路ムンバイへ向かいました。九日(火)は朝タージ・マハールホテル近くのインド門からチャーター船でエレファンタ島へ行きまし。途中、列車が壊れたため歩きで七世紀のヒンズー教のシバ神にささげられた石窟寺院群を見学した後、老舗レストランでムガール料理を堪能、中でもタンドリーチキンが美味しいでした。午後はプリンス・オブ・ウェールズ博物館やサン・トーマス教会見学し

れた所は聖劇ミュージカル『St.Francis Xavier Mission to Japan』で聖フランシスコ・ザビエルがあらゆる困難を乗り越えて鹿島に渡ってきた感動のミュージカルでした。私たちは鹿児島からやって来たとして紹介され、舞台上上げられて皆さんから盛大な拍手を浴びました。八日(月)はドンボスコ

福昌寺跡キリシタン墓地を清掃

守り、伝え、繋げるために

二月十五日(日)福昌寺跡キリシタン墓地で壮年会を中心に青年、婦人たちが十六人が清掃作業をした。これは信徒発見百五十周年に照らし合わせたもので、作業後、丸野六雄神父司式で追悼ミサをささげた。

同墓地はキリシタン弾圧時代、長崎は浦上から薩摩へ流された三百七十五人のうち帰郷までの約三年の間に天に召された五十三人の

教会でミサの後、ゴア料理のレストランで昼食、市内観光し夕方、空路ムンバイへ向かいました。九日(火)は朝タージ・マハールホテル近くのインド門からチャーター船でエレファンタ島へ行きまし。途中、列車が壊れたため歩きで七世紀のヒンズー教のシバ神にささげられた石窟寺院群を見学した後、老舗レストランでムガール料理を堪能、中でもタンドリーチキンが美味しいでした。午後はプリンス・オブ・ウェールズ博物館やサン・トーマス教会見学し

【Holly Name Cathedral】でミサをささげました。最終日の十日(水)はムンバイから帰路につきまし。残念ながら聖フランシスコ・ザビエルの眠る教会内部など写真撮影はできませんでしたが、参加された皆さんは目に焼き付けたい思いも持ち帰ってきてます。また参加者に未信者の方も二人いましたが祝福も積極的に受けられてました。幸いに参加者はお腹も壊さず病気にもならず帰って来れたことに感謝です。ダンネヤワード(感謝)

郡山司教が出場

インターフェイス駅伝

二月十五日(日)京都マラソンと併設して開催された「インターフェイス駅伝」に郡山司教が出場した。インターフェイス駅伝は、異なる宗教者が四人で一チームとなり、世界平和を願うタスキをつないでゴールを目指すもの。京都の神社仏閣を巡るコースで行われる四回目的「京都マラソン」に参加したのは一万六千人もの健脚自慢たち。その中に十組(四十人)の平和のために脚を進めるお坊さんなど宗教者たちの姿があり、その一員が司教だった。最高齢ランナー郡山健次郎司教は、第三走者として出走し、やはり平和を願って参加したイスラム教代表に思いを込めたタスキを手渡した。

編集後記

意義深い四旬節。この大切な期間がよい復活祭の準備の時となります。ようお祈りいたします。鹿児島教区報三月号をお届けします。

文芸

俳句

- 鹿児島純心 川上 和
- ご受難の聖地想いに梅しだる
- 純心学園 山頭 信子
- 冬鳥のルルドの祠ひくく飛び
- 鹿児島市 徳永ノブ子
- 遠き日の思い出出過ぎる針供養
- 奄美市 林 常広
- 春なのに寒波再来隙間風
- 国分教会 政 ノブ子
- 鬼やらう豆跳ね返りわれを打つ
- 出水教会 遠竹 睦郎
- 復活祭キリスト祈る御ミサかな

短歌

- 鹿児島純心 川上 和
- 司教様教区のおしるべ指し示す「寄り添う心」
- 育む年に
- 先祖より受けし信仰今ここに生きる喜び
- 「奉獻の年」
- 妹も卒寿となりて語り合う若かりし日の
- 父母のこと
- 溝辺教会 松元 史江
- 出水教会 遠竹 睦郎
- 深き寂しき山の中で修行せしキリスト忍
- びつつ両手を合わせ祈り捧げぬ
- 国分教会 市来 房枝
- 一歳の吾を抱きし両親の遺影に告ぐる喜
- 寿となりしを

キッペス神父の黙想会

信仰のために迫害されている人々のために
 3月20日(金)18時~22日(日)16時30分
 場所: マリア山荘 霧島市溝辺町麓3616-4
 費用: 1万5千円(宿泊代・食事代含む)
 連絡: 福沢智子 ☎090-2083-9223
 fuku-h@ml.satsuma.ne.jp

青少年のための四旬節黙想会

中高生と青年を対象にした四旬節黙想会を教区本部で開催します。時間等の都合で小教区の黙想会に参加できない若者たちどうぞお越しください。
 日時: 3月8日(日)13時~17時
 場所: 教区本部2F会議室
 内容: 講話・ゆるしの秘跡・ミサ